

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
コジャノメ	タテハチョウ科	少し暗めのヒメジャノメ	X	X	○	全国
成虫発生時期 (月)						
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12						
○ 食草		食樹	発生回数/年		越冬形態	
ススキ、チヂミザサほか			3		幼虫	



川崎市 5月25日 翅はヒメジャノメに比べると濃い色調



相模原市 6月1日(2019年) 翅を開くとコジャノメと分る

飛んでいるとなかなかヒメジャノメとの区別が付きませんが、後羽の表の羽にはヒメジャノメにはないジャノメチョウのトレードマークともいえる眼状紋があることで簡単にわかります(但し、余り羽を開いてくれません)。ヒメジャノメが明るいところを好むのに比べると、コジャノメは暗いところを好む陰的な傾向があります。

ジャノメチョウは全般的には暗いところを好む傾向が強いのですが、周辺地域で上記のヒメジャノメ以外にも明るいところを好む蝶として、ヒメウラナミジャノメ、ジャノメチョウ(個別の蝶の種類です)があげられます。また、この周辺には見られませんが高山蝶のベニヒカゲ、さらに高地にいるクモマベニヒカゲなども明るい草地を飛び、訪花します。右下の写真はフランスのヴェルサイユ宮殿の庭にいた「マキバジャノメ」で陰性のカケラもありません。

陽性のジャノメチョウたち



ジャノメチョウ  
長野県 南佐久郡  
7月27日(2017年)  
(多摩川周辺にもいるという記録はあるものの見たことはありません)



ヒメウラナミジャノメ  
多摩川土手(稲田堤)  
5月13日(2019年)  
ナヨクサフジで吸蜜



ベニヒカゲ(高山蝶)  
長野県 前穂高岳 岳沢  
8月26日(1973年)  
タテヤマアザミで吸蜜  
後羽裏に白い斑がはいるクモマベニヒカゲは、ベニヒカゲよりさらに高所に生息する



マキバジャノメ  
フランス ヴェルサイユ  
7月20日(2008年)  
ヴェルサイユ宮殿内の  
"Grand Trianon"の庭